

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホームたちばな 3号館		
所在地	宮城県宮崎市高岡町内山2407番地3		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮城県宮崎市原町2-22 宮城県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和7年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同一敷地内に併設病院があり、利用者様の病状に応じた対応が迅速にできる体制を構築している。利用者様・ご家族様はもちろん職員からも病院が近くにあり安心できると話がある。グループ内に多様な利用者の状態に応じた対応が出来る施設がある。グループ内で職員の研修や異動がある事で、職員の資質の向上やサービスの向上にもつながっている。眠りスキャンの導入を行い、職員の負担軽減を行っている。
 ・グループ内での協力体制や地域との交流を通じて、非常災害時に協力して対応が出来るよう努めている。
 ・敷地内に、花壇や畑がある為、利用者様と共に花や野菜などを育て、気分転換や個々の役割が出来ている。
 ・家族との信頼関係づくりの為、利用者様の細かな情報提供を面会時や、定期的な電話やメールで連絡を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に、山・畑の自然が一望できる環境の中に立地している。同敷地内に併設病院があり、入居者家族、職員も安心できている。全居室に眠りスキャンの設置があり、入居者の状態が居室に行かずともわかる状態が確認され、夜間時も含め入居者の安全保持と職員の負担軽減につながっている。管理者他職員は、家族と電話連絡を頻回に行い、急変時に早い対応を得られることを心掛けている様子が伺えた。他施設の受け入れ困難事例にも真摯に検討し、受け入れを行い、認知症の症状改善に向け力を注いでいる。家族面会者の制限もなく、居室で行うことを続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3号館の目標「利用者職員が、ともに元気で楽しい日々を穏やかに過ごせるように支援します」を玄関先に掲示している。ユニット職員で共有及び意識して、実践できるように努めている。	各ホームの玄関には基本理念が掲示され周知を図っている。年度当初の事業計画に基本理念を載せ、4月の定例職員会で説明を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り、行事や買い物を通して利用者として外出している。利用者の買い物の要望があれば、町内にある店に行き地域資源を活用して支援を行っている。	高岡地区文旦の会に参加をして地域の情報等を得られている。季節ごとの行事のほか、ドライブを企画して外出支援を行ったりする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組みとして、認知症実践者研修等の研修に参加して、認知症の理解が深めるように努めている。また号館会議で、認知症の勉強会を行っている。その事を地域貢献に活かすまでは、至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に行っている。家族や後見人等が参加されており、取り組みや意見交換を行って、サービスの向上が出来るよう取り組んでいる。運営推進会議の内容は、管理者より文書回覧もしくは月1回の定例会で報告している。	前回の委員会で受けた意見に対しての報告資料が細かく提示され、運営推進会議委員の理解が深まっている。運営推進委員の家族とその他の委員から意見が出るものに対しても真摯に検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や関係機関や地域包括支援センターとの連携や連絡体制は出来ている。また定期的に地域の会議にも参加にも参加して、協力関係を築けるように取り組んでいる。	定例会議に必ず参加をして連携に努めている。他施設の受け入れ困難な入居者の受け入れ等にも積極的に相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では身体拘束は行っていない。研修を通して、具体的な例を通して学ぶ機会がある。また号館会議にて学ぶ機会が出来るように取り組み、身体拘束についての理解が深められるように努めている。	玄関施錠は夜間のみ、日中は施設周囲と玄関開閉チャイムの工夫を行い、入居者は自由に入出りをして施設周囲を散歩できるため不穏が少ない。不穏の原因を深く話し合い、本人中心の対応方法を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関して、号館会議を開催して学ぶ機会が出来るように取り組んでいる。また言葉遣いや支援へのありかたについて、振り返りが出来るようにしている。利用者が安全安心して過ごせよう勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、号館会議にて勉強会を行って日常生活自立支援生活や成年後見制度に関して学ぶ機会が出来るように取り組んでいる。関係者と話す機会があり、利用者の支援に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、利用者本人及び家族と面談を行っている。入所時、書面で契約内容を説明して同意をえている。家族からの不安なことや疑問点に関しては、丁寧に説明を行って同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスでは、必ず家族からの意見や要望を確認して、運営に活かしている。また2ヶ月ごとの運営推進会議にて、外部者からの理解が得られるように状況報告を行っている。	遠方に住む家族からの意見・要望は電話で聞くが、近場の家族は居室で面会を行いながら意見徴収に努めている。運営推進会議から出た意見なども可能な限り他の家族にも伝える努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は、朝のミーティングに参加して職員の話聞く機会を設けている。また定例会・人事課面談にて、個々の職員の話や意見を聞いて、業務改善や環境整備に取り組んでいる状況である。	ミーティング、定例会時などに代表者・管理者は積極的に参加し意見の収集に努めている。管理者は特に介護現場に出て、入居者の状況把握と職員の関りに目を向け意見が聞けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例会や朝礼に参加して、職員の状況を把握して意見や要望に沿っている。職員の意見に沿って、労働条件や職場の環境整備に努めて働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画書は作成して、職員の経験に見合った研修に参加させてもらっている。外部や内部の研修または定例会を実施している状況である。園内研修では、全員が研修内容を共有できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修で、同業者と交流してコミュニケーションを図る機会がある。また発注依頼等に関して法人内での同業者との交流がある。定例会では、他職員と交流が出来る機会があり、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	些細な会話を通して、会話の時間を多く持ち人間関係関係作りに努めることを実施し会話の中で本人の生活状況や不安・要望を聞くことで人間関係及び信頼関係をきずいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係作りに努めることで何でも相談できる関係作れるよう常に心がけて対応をしている。家族・本人の気持ちを大切にしながら利用者により良いサービス提供を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、一番に何が本人にとって必要であるかを話し合い支援を実施している。必須事項の把握に努めなが支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることは共に実施している。気長く行うことで喜びをお互いに感じられるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の状態を観察し、家族に報告を行い共有に務めている。家族の意向も大切にしながら家族と共に本人を支えて行けるような関係作りを築けるように支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以後、外出の機会が困難な状況があるが家族の協力をお願いしながら出来る範囲で親族や思い出にある場所との関係を継続できるように支援を行っている。	家族以外から面会希望があればまずは家族の了解を得、希望に添えるようにしている。本人の希望を聞き、墓参り、自宅を見るなどの支援をしている。本人の口から出るエピソードに沿った形での支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	物づくりや、レク・日常生活等を通して、利用者同士の関係を把握し孤立することなく楽しく過ごせるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の利用者に対しても、病院との連絡を維持しながら、家族への状態報告や家族からの相談時にも対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で把握した情報等をケース記録等に残し、職員間で情報共有をしている。	本人の言葉で聞く要望の把握に努めている。口に出せない入居者は、家族の面会時や電話連絡を行いながら本人に寄り添う形でのケアの提供を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に対して、その人らしい生活を送れるように定期的に観察、聞き取りをし、これまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、ケース記録などに残している。必要時は、職員間で話し合いをしたり、号館会議などを開き把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の健康状態や提供したサービス内容を記録し、日々の状態を伝え、ご家族の思いを聞いている。ご本人やご家族の意向や要望を取り入れている。	本人第一に介護計画を作成するが、家族にも意見を求めている。無理な場合は電話で意見を聞きながら本人の意向実現に努める。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録からも本人の状態、様子などを共有して、プランの見直しが行いやすい記録を残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時等、外出支援費が発生するが病院へ同行し付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、地域資源との協働は難しくなったが出来る範囲でオレンジカフェに参加したり、園外ドライブや他号館の利用者との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、辰元病院に定期受診行っている。家族の希望などがあれば他科受診行っている。	入所時にかかりつけ医を同敷地内の病院に変更の同意を得、必要時は他科受診も支援する。医療との連携が十分に図られ、本人・家族ひいては職員の安心にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール者(待機職員)の体制を整えている。また、かかりつけ医の病院とも状態報告をし、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である辰元病院と利用者の情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要項目説明書に記載し同意を得ている。	看取りケアにも取り組み本人・家族の意向に沿って支援を行っている。急変時の医師への連絡も24時間、いつでも連絡・相談ができる体制がとられているため、家族はもちろん、職員も安心してケアができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、勉強会などを実施し冷静に対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、防災訓練を行っている。年2回他の施設とも合同で実施している。	月に1回の避難訓練を行っているが、1・2・3号館別々に行い、相互協力ができる体制を整えている。地震時は施設が高所に位置するため地域住民の避難場所になることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りを傷つけるような言葉使いや接し方には常に気を付けて支援している。また入浴や排泄時にはプライバシーを損ねないよう対応している。	入所時に聞き取った生活歴・職業歴などを尊重しケアの対応に工夫をしている。プライバシーには十分に配慮して本人の誇りを損ねないよう、自身の満足感にもつながるようケアの統一に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを密に図り本人の気持ちや要望を表出できるように雰囲気や環境を作り自己決定できるように働きかけている。言葉で表現することが困難な場合には表情や行動などから思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思や希望を尊重しながら共同生活のリズムとのバランスを取りながら一日を楽しく過ごせるよう本人の趣味や好みを考慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時には髪型について本人の希望を聞き対応している。毎朝の更衣時には本人の好きな衣類を選び着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安心して食べられるよう個々の状態に合わせて食事形態を考慮し提供している。台拭きやお盆拭きなど依頼したり一緒に رفتりしている。食事前には食事を楽しめるようメニューの説明を行っている。	本人の身体能力を考えられることは日常的に手伝ってもらっている。おやつ作りはみんなで行い楽しみを提供している。必ず感謝の言葉を伝えることを職員間で心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や水分量のチェックを行い一人ひとりの状態の把握をしている。摂取量が少ない場合には好みの物や代替品を提供したり食事介助して確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い歯磨きうがいをして貰い清潔保持している。歯科医による口腔研修では口腔内の状態を診てもらい指導を受けている。夜間は義歯を預り洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	処遇表で排泄パターンを把握し尿意便意が明確でない方には定時にトイレ誘導を行いトイレでの排泄を出来る限り支援している。	本人ができることを維持支援するため、昼夜ともにトイレでの排泄誘導を行っている。排泄チェック表も活用しながら排泄の管理も行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量のチェックを細かく行い運動や体操等行い便秘の予防を行っている。水分摂取の少ない方には水お茶以外の物で個々に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けに応じられなかった時には時間や日をずらしたりして本人の意向に添って対応している。入浴剤や菖蒲湯やゆず湯等でゆっくりと入浴を楽しめる支援をしている。	入浴日は基本決まっているが、本人のその日の気分もあり前後したり、時間の調整などを行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1週間に1回は、敷布団や枕カバーの洗濯を行い清潔な状態が保てるように支援している。またマットレスを使用して快適に安眠できるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬に関しては、記録して内容把握している。服薬が変更になった場合、看護師に報告している。薬変更があれば、記録して情報の共有が出来るよう取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ等の活動をして役割が持てるように支援している。また季節にあった貼り絵等の活動を行い食堂壁に貼って楽しみが持てるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、職員が利用者と一緒にゴミ捨てに行き気分転換が図れるように支援している。またドライブ等の支援も定期的に行っている。利用者から買い物の要望があれば、外出支援を行うように努めている。	入所前からの日常生活習慣に合わせて理美容なども家族の協力を得られることが多い。出張で受けることもあるが、地域内の事業者の協力が得られている。外出に際しては可能な限り希望に添えるような対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者1人ひとりの要望に応じて、お金を持っていただいている。お金が不足するようであれば、職員と一緒に事務所に行くように努めている。金銭管理は事務員や職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外在住の家族からの電話があれば、利用者が家族と話しができるように努めている。また顔写真入りの年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が活動等で作った作品に関しては、壁に貼っている。活動に関しては、季節感を感じるような物を提供して、居心地よく過ごせるように環境を整えている。	共用空間を中心に扇形に居室が配置されそれぞれの声が聞こえるなど落ち着いた雰囲気が出ている。窓からは外の景色が一望でき、季節に応じた花々、田畑の状態が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様がゆっくり自由に過ごせるように空間づくりに取り組んでいる。仲のいい利用者同士が一緒に過ごせるようソファを設置して共用できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や馴れ親しんだ物または写真等を置いている。利用者本人にとって必要な物をおいて、生活空間を大事にして居心地よく過ごせるよう環境を整えている。	居室内は本人の意向に合わせた調度品が置かれ自分らしさが出せるように工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人が持っているストレングスに着目しながら支援している。本人様にできる事はして頂き、持っている力が引き出せるような関わりをしている。		